

開催地名：奈良県桜井市	
開催日時	令和2年12月2日（水） 13：30～15：00
開催場所	桜井市役所
語り部	太田 千尋（宮城県仙台市）
参加者	桜井市職員 約50名
開催経緯	地震、台風、記録的豪雨など様々な自然災害が日本全国で多発している。桜井市内には奈良盆地東縁断層帯が走り、最大震度7の地震が想定されているが、これまで大きな災害を経験したことがなく、災害時にどのような状況に陥るのか、どのような対応が求められるかなど、職員の災害に対する認識、意識が高いとは言えない。そのため今回、東日本大震災の語り部の講演を開催し、意識の高揚を図ることとする。
内容	<p>（1）東日本大震災</p> <p>私の住む仙台市内では、宮城野区が震度6強、青葉区、若林区、泉区が震度6弱、太白区が震度5強であった。震度5と震度6とでは揺れの大きさが全く違う。体がゴム毬のように床からボーンと上がり、そして縦揺れ、横揺れ、今度はななめ揺れと、どうしたら良いか分からないような揺れが長く続いた。地下からすごい勢いで突き上げる感じの揺れであった。そのあと、皆さんご存じのように仙台市でも津波に襲われ、大きな被害を受けた。また、市内各所で避難所が開設され、多くの住民が避難した。</p> <p>（2）避難所運営について</p> <p>避難所に一番最初に来る人は、基本的に元気な人たちである。そして最後に来るのが、足の不自由な人だったり、車いすの方だったり、障害をお持ちの方が多く。本来はそのような障害をお持ちの方々に、トイレに行きやすく、暖房がよく効いた温かい場所を利用していただくべきだが、どうしても早く来た人たちにそのようないい場所は取られてしまう。これは住民の皆さんにご協力いただきたい事項として、是非気を付けていただきたい。</p> <p>トイレについては、日常生活では全く気付かないことだが、男性用と女性用のトイレの距離を離すということが必要だったり、手洗い用のジャグを用意したりといったことの必要性を痛切に感じた。これらについては保健師さんたちに工夫をしていただいた。また、避難所内は土足禁止にしないと、特に水気の多い災害の場合には、避難所は砂漠みたいになってしまい、マスクをしないと中にいられない環境になってしまう。コロナ禍の現在で避難所生活が求められる事態となった場合は、必要な対応はさらに増える。これらについても想定しておく必要がある。</p>

仙台市では、避難所の運営はその地区の自治会長たちで作った避難所の運営委員会で行っていた。そして、その運営委員会の中で分野ごとに班を構成し、住民主体の役割分担を実施していた。やはり男性の役割と女性の役割というものがああり、男女それぞれに特徴がある。例えば生理用品の配布の仕方、赤ちゃんの授乳やおむつをかえる部屋の設置など、どうしても男性には疎い部分がある。また、高齢者などの災害弱者については、女性のほうが上手にリードしてくれる。男性よりもコミュニケーション能力が高い女性がうまく地域の中に溶け込んでいる自主防災組織は、一般的にうまく機能する傾向がある。

### (3) 自助・共助・公助の役割

自助とは、自分の身は自分の努力によって守ることである。自助の対策としては、住宅の耐震補強や家具の転倒防止、非常持ち出し袋の準備、飲料水や食料の備蓄、避難ルートや家族との連絡方法の確認などが挙げられる。

共助とは、地域や近隣の人々と互いに協力しあうことである。日頃からコミュニケーションをとり、防災訓練などの実施も有効であると思う。そして公助は、市町村、都道府県、国による行政や消防機関等によるものであり、大規模な支援を期待できるが、発災後すぐには機能しないため、自分たちで何とかして助け合うことが必要である。自助、共助の充実を図ることを是非お勧めしたい。

### (4) 非常持ち出し品

非常持ち出し品の優先順位だが、第1番目は命に関わるもの、常用されている薬である。その次は、その人専用のもので、これは眼鏡や入れ歯など、貸し借りができないものである。こちらも抜かりなく持ち出せるように、日頃からの意識付けをお願いしたい。大切なのは、男性で10キロくらいに抑えていただき、優先順位の高いものを抜かりなく持ち出す意識付けをすることだ。



開催地より

東日本大震災の体験談、教訓について非常にわかりやすくお話しいただいた。事前の準備の大切さや、避難所での有益な情報など、今後の防災活動に役立つものばかりだった。ありがとうございました。